

普及活動情勢報告（平成30年5月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

中山間地域の大規模土地利用型法人への栽培支援 ～第1回勉強会の開催～



野菜の基礎技術を学ぶ

4月26日、本山町下津野にある（株）カワムラファームで、役員と従業員の4名を対象に露地野菜の栽培に関する勉強会を開催しました。役員1名と従業員2名は新規就農者であり、普及所からは主に野菜栽培の基礎について説明しました。

参加者からは、「学校で習ったことの復習になった。基礎的な話でわかりやすかった」との感想が聞かれました。

今回は、病害虫対策と併せてほ場での栽培技術について勉強会を予定しています。今後も継続して開催し、若手職員の資質向上に向けて支援していきます。

ユズの青果生産にむけて～現地指導～



せん定の仕方を指導中

4月27日、大豊町のユズ生産ほ場で、本年度から青果生産に取り組む2戸の農家に、病害虫防除とキズ果防止のための夏期せん定などについて指導しました。

2戸とも、これまでは無農薬の酢玉生産であったため、防除機の種類や使い方など基礎からの指導でしたが、昨年指導した低樹高仕立への改良効果を実感していたためか、熱心に耳を傾けていました。

技術の習得には、実際の樹づくりや管理作業を経験する必要があるため、青果部会の役員にそれらの指導をお願いしています。

今後は部会活動への参加を呼びかけ、部会全体で支援していく体制にしたいと考えています。

嶺北地域園芸戦略会議で産地ビジョン等について協議



今年度の取組について協議

4月27日、JA土佐れいほく本所で園芸部役員、営農指導員と普及所25人が出席して嶺北地域園芸戦略会議を開催し、平成30年度の取組内容について協議しました。

事前にJA営農指導員と各品目の課題や問題点を洗い出し、塩類集積に起因する土壌病害虫対策の実証結果や新たに取り組むpFメーターによる適正な灌水量の実証について報告しました。

参加者から「pFメーターは畦に水があるかどうかの目安となる」という意見が出されました。

普及所では高齢化による生産者の減少をくい止めるため、農業で生活ができるよう出荷量を増加させ、新たな担い手の確保につながるよう支援します。

JA土佐れいほくカラーピーマン部会現地検討会



青空の下で勉強中

5月10日、JA土佐れいほくカラーピーマン部会は、本山町大石で現地検討会を開催し、生産者17人が参加しました。

普及所は部会の課題となっている、病害対策や草勢を維持するための栽培管理、着果負担の少ない新品種の実証経過、GAPを普及するために優良事例等を紹介する「GAP通信」について情報提供しました。

生産者は新品種への関心が高く、現在の品種との違いについて熱心に情報収集していました。

普及所は課題解決にむけてJAと連携して部会活動を支援していきます。

イタドリ栽培の可能性を探る～土佐町松木野営農組合イタドリ巡回～



松木野イタドリほ場

5月14日、松木野営農組合員1人とともに組合員が栽培しているイタドリほ場6カ所を巡回しました。

松木野営農組合では水稲に代わる転作作物としてニンニクやサツマイモの栽培に取り組んでいます。今年からは試験的に組合員3人が協業品目として有望なイタドリ栽培を開始しました。

組合員からは「一部の芽の先端部が焼けて生育が遅れている」「今後は除草を中心に管理していく」など栽培状況を確認しました。

普及所では今後、追肥などの栽培管理について指導するとともに、作業時間や費用について検証していきます。

収量向上を目指して～シシトウ現地検討会～



実証試験(高接ぎ木)の状況を皆で確認

5月14～16日、JA土佐れいほくシシトウ部会は、大豊町、土佐町、本山町で現地検討会を開催し、26人の生産者が参加しました。

普及所からは、温度管理、整枝・誘引等の栽培管理とGAPの取組を周知し、青枯病対策として実証している高接ぎ木試験の進捗状況を報告しました。

生産者からは、「高接ぎ木の生育は慣行と比べてどうか、どこで育苗を依頼したか」等の質問が寄せられました。

普及所は今後、梅雨時期から増加してくる病害虫(黒枯病、斑点病、アザミウマ類等)の防除を周知するとともに、高接ぎ木の状況についても生産者と共有していきます。

今年もうまく作ってがんばるぞ！ ～JA土佐れいほく米ナス部会現地検討会～



栽培管理を学ぶ

5月17日、JA土佐れいほく米ナス部会は、土佐町で現地検討会を開催し、9人の生産者が参加しました。

普及所からは、灌水・追肥の適正管理や天敵の活用などを説明しました。参加者は、適正な施肥量を把握するために、定期的に土壌分析を実施することや、ゴマやスカエボラ等天敵温存植物を利用した天敵の定着促進について情報交換しました。

普及所は、今後も適期の栽培管理を徹底するため、JAと連携して部会活動を支援していきます。

新たな土壌消毒方法導入にむけて ～土壌還元消毒に関する研修会を開催～



担当者から説明を受ける参加者

5月18日、土佐町の花き栽培農家において、低濃度エタノールによる土壌還元消毒の実証ほを設置するとともに、土壌還元消毒の研修会を開催し、生産者や関係機関15人が参加しました。

研修会では、農業・食品産業技術総合研究機構の担当者から処理方法等の説明を受け、今後の技術導入に向けて情報交換を行いました。

普及所は、実証ほ設置や研修会の開催を調整しました。

農家からは「今回の方法は、夏秋期作型の花き産地でも導入できる可能性がある。今後、病害の抑制効果を確認して導入を検討したい」「土壌還元電位や処理前後の土壌病原菌密度を測定することで、処理効果が把握できて良い」などの声が聞かれました。

普及所では、今後も夏秋期作型の野菜・花き産地における土壌病害対策について、関係機関と連携して取り組みます。